

平成 26 年 7 月 2 日

第一回学校関係者評価委員会の総括について

専門学校東京工科自動車大学校世田谷校
校長 小林 完

平成 26 年 7 月 2 日に開催された平成 26 年度 第一回学校関係者評価委員会の総括について、以下の通りご報告いたします。

記

当該会議議事録 議事中の「第一号議案：平成 25 年度自己評価報告書に基づく学校関係者評価について」において賛成多数により可決決定されたとおり、当該委員会では平成 26 年度の学校関係者評価は、平成 25 年度専門学校東京工科自動車大学校世田谷校自己評価報告書内容に準じるものとされた。

委員会の上記のご判断に基づき、本校としては、第一回学校関係者評価の総括として、「平成 25 年度版自己評価報告書」の総括部分の抜粋を、当該委員会の総括として報告する。

なお、本評価委員会から学校側に対し、報告書中で学校側が自らの課題として捉えている点については改善を図って頂きたい旨要望があったこと、また、議長から各委員に対し、次回会合までに本自己評価報告書について各自さらに内容を精査し、意見を持ち寄ってもらいたい旨要請があったことを記しておく。

以上

会議議事録

会議名	第1回 学校関係者評価委員会			専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校		
開催日時	平成26年7月2日(水) 17時 ~ 19時					
会場	東京工科自動車大学校世田谷校 402教室					
出席者 10名	委員	6名	井組 浩紀、植平 誠、山森 敦 谷川 潮、森田 隆、福本 俊一(代理)			
	事務局	4名	小林 完、瀧谷 健、菅井 充、戸辺 武			
欠席者 1名	委員： 小野 宗徳					
会議碌	1. 事務局代表者挨拶 2. 委員の紹介 3. 議長選出 <p style="margin-left: 2em;">事務局より井組氏を推薦し、全会一致で承認された。以後進行は議長による。</p> 4. 議事					
	<p style="margin-left: 2em;">第1号議案： 平成25年度自己点検評価概要について・・・[添付資料A]</p> <p style="margin-left: 2em;">事務局代表(小林)より、前年度の学校関係者評価結果ならびに現状の改善状況について報告を行ったうえで、新たに纏められた「平成25年度自己評価報告書」の提示と概要説明を行なったのち、審議を行った。</p> <p style="margin-left: 2em;">【審議事項】</p> <p style="margin-left: 2em;">①評価基準の考え方？ → 1:不適 2:不満 3:ほぼ適切 4:適切とし、点数は厳しみについている。</p> <p style="margin-left: 2em;">②報告書式は国で定められたものか？ → 専修学校等評価機構の書式による</p> <p style="margin-left: 2em;">③ウイークポイントと改善結果を目で見て分かり易くする工夫が必要 以上の審議がなされ、次回委員会に意見を持寄るようお願いをすると共に、③の改善点を盛り込む事で全委員の承認を得た。</p>					

第2号議案：

1. 平成26年度事業計画について・・・[添付資料B]

- ・就職率、退学防止、科目履修、資格取得目標値
- ・東京工科グループの教育ビジョン、コアコンピタンス
- ・エンロールメントマネジメントと組織体制
- ・職業実践専門課程としてのP D C Aサイクル
- ・「東京工科グループ企画部」の機能

以上の項目について事務局代表より概要説明を行ったのち、審議を行った。

【審議事項】

①資格取得率目標について

1級口述は昨年度達成値より下げる必要はないのでは？

→ここ数年安定した結果となっており、見直しをしても良いと思っている
筆記81%合格は売りになるのか？

→メーカー系校で100%実績もあり、満足できる数値ではない

②退学の主な理由は？

→1年生：初期のアンマッチ、3年生：自信喪失が割合として高い。

③学費問題に対しての支援制度は？

→学内・学外奨学金、企業奨学金等で対応している。

④退学防止として、他分野への転科は可能？

→校を超えた転科は訓練時間が認められない。校内で昼間→夜間の実績はある。

⑤1級科はメーカー系就職に重点を置いているとの事だが、販売系に進んだ学生は
メーカー求人がなかったのか？

→学生本人の希望をもとに指導をしている。現状では十分に求人数がある。

⑥メーカー系企業に進んだ卒業生情報は、在校生へフィードバックされるのか？

→情報は掴んでおり、順次行っている。

以上の審議がなされ、①について学校として検討する事で全委員の承認を得た。

2. その他意見交換

①Iターン就職についてのその後の取り組みはどうなったか？

→企画部が主管しているが、現状該当学生が居ない。

②学生募集増に向けてどの様な取り組みをしているか？

→近隣地域での世田谷校の認知度が低く、苦戦している。

→全国の工業高校向けに1級科のプロモーションを行っている。

③住宅支援は行っているか？

→ドミトリー(契約)の斡旋を行っている。

④地方よりどうやってこの学校を調べているか？

→WEBが主。1級科、特に夜間の反応者は多い。

	<p>⑤オープンキャンパスへの高校生誘致方法は？ →主に首都圏で高校ガイダンス、会場(合同)ガイダンスを実施している。</p> <p>⑥現状の定員充足は？ →十分には達していないが、クラス人数によるコストバランスも無視できない。</p> <p>⑦バイク駐車場(夜間募集上重要)に空きはあるか？ →現状では余裕がある。</p> <p>⑧オープンキャンパスで企業からメッセージを送る場面は作れないか？ →今年からO Bを業務として派遣していただいている。</p> <p>⑨地域の意見として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学増に向けてもっと前向きに取り組んで欲しい。 ・目標値上げる事は大事だが、在校生のケア(学校が変わってしまった)も必要。 ・校独自の良いところは積極的にアピールして欲しい。 ・2級課程学生こそインターン実習が必要 {メカニック志望者を育てたい}。 →短期なら可能。夜間学生の昼間アルバイトも選択肢として考えられる。 <p>⑩メーカーの就職実績を上げる意図は?? 製造>整備就職比率を強調する事のリスクはないのか？職域別に就職達成率を出した方が良いのでは？</p> <p>以上の意見交換がなされた。学校はこの内容を整理し、今後の改善課題として取り組むことで全委員の承認を得た。</p> <p>5. 次回開催日：平成 26 年 11 月 5 日(水) {参考}教育課程編成員会：10 月 8 日(水)開催</p>
--	---

以上

会議風景



平成 26 年度

第 1 回 学校関係者評価 結果

(学校関係者評価委員会実施日:平成 26 年 7 月 2 日)



学校法人 小山学園
専門学校東京工科自動車大学校世田谷校

1. はじめに

本校の平成 26 年度第 1 回目の学校関係者評価は、平成 26 年 7 月 2 日に開催された学校関係者評価委員会で承認され、平成 25 年度自己評価報告書内容に準じるものとされました。この事について、以下に結果をまとめます。

大項目	平成 25 年度 自己評価	第 1 回学校関係者評価
基準 1 教育理念・目的・ 育成人材像	3.8/4.0	<p>小山学園の教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。</p> <p>一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要がある。</p>
基準 2 学校運営	3.4/4.0	<p>学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切に運営されている。一方、専門学校教育を取り巻く環境は日々変化しており、柔軟性かつ迅速に対応できる体制を整える必要がある。</p>
基準 3 教育活動	3.8/4.0	<p>教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関しては組織的に取り組んでおり教育の質保証に関しても、コマシラバスや授業シー等の独自の取り組みもあり評価できる。</p> <p>今後の課題としては、自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズがさらに高い教育の質を望むばかりではなく、内容も変化することも考えられるため、教育課程の編成に関しさらに研究を続けるとともに、優れた資質を有する教員を確保すること努力が必要である。</p>
基準 4 学修成果	3.0/4.0	<p>就職については、自動車業界の幅広い分野から求人があり、学習成果が業界のニーズに結び付いていることが窺える。また、早期内定や高い就職率など満足できる水準に達していると考えられる。資格・免許取得率の向上に関しては、現状に留まることなく、さらに高い目標を目指しさらなる施策を講じることを期待する。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため、今後は組織として体制を整えていく必要がある。</p>
基準 5 学生支援	3.3/4.0	<p>就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。また、カウンセリングに対する現状の対応策について、質問があり次年度の向けて対応策を計画するとしている。</p>
基準 6 教育環境	3.7/4.0	<p>施設・設備・教育用具等は、おおむね満足できる水準に達している。また、学外実習・インターンシップ・海外研修等への取り組みに関しても、おおむね満足できる水準に達している。一方、防災面に関しては、施設面での問題は無いが、緊急時の避難を想定した訓練および連絡体制などにおいては、さらに備えを充実することを検討すべきである。</p>
基準 7 学生の募集と受入れ	3.5/4.0	<p>学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。</p>
基準 8 財務	3.6/4.0	<p>財務に関しては、財務基盤、予算收支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。</p>
基準 9 法令等の遵守	3.1/4.0	<p>法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。教育情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。</p>
基準 10 社会貢献・地域貢献	3.5/4.0	<p>学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、地元の町内会の活動、および地域の子供たちを対象とした行事へのスタッフなど、高齢化する地元社会において若い学生の参加が非常に感謝されている。また、地元中学生や修学旅行生に対する体験授業等の実施など積極的に実施している。</p> <p>これらの積極的な取り組みについて、一定の評価ができる。</p>